

小 学 校

指導事例 1 健康な生活

対象：第3学年

教科等：体育科保健領域

★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「健康な生活」

- (1) 健康な生活について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 健康な生活について理解すること。
- (イ) 毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。
- イ 健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

1 単元の目標

- (1) 健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、健康の保持増進には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることや体の清潔を保つこと、明るさの調節、換気等の生活環境を整えることについて、理解することができるようにする。
- (2) 健康な生活について課題を見つけ、その解決に向けて考え、それを表現することができるようにする。
- (3) 健康な生活について、健康の大切さに気づき、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようにする。

2 単元について

ここでは、児童が自主的に健康によい生活を送るための基礎として、健康の大切さを認識できるようにするとともに、毎日の生活に関心を持たせ、健康によい生活の仕方を理解できるようにする必要がある。そのため、日常の具体的な場面の中から「元気な様子の人（架空の人物であり、以下、「元気さん」とする。）」に注目し、毎日を元気に過ごすためにはどうしたらよいかを考えることから始める。そして、それらを主体の要因と環境の要因に分け、それぞれの要因について自分の生活に置き換えながら考え、自分の生活を見直すことを通して、健康によい一日の生活の仕方や生活環境を整えるために自分でできることを実践する意識を持つ。

特に、第3学年は保健領域の学習に最初に出会う学年である。伸び伸びとした元気いっぱいの子供が、健康は、明るく元気な毎日の生活のためにはかけがえのないものであることを実感し、今後の学習につながるよう配慮するものとする。

3 単元計画

時	学習内容
1	健康な生活とわたし ○心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や身の回りの環境の要因が関わっていること。

①

2	一日の生活の仕方 ○毎日を健康に過ごすためには、一日の生活のリズムに合わせて運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活をする必要があること。
3 (本時)	体の清潔 ○毎日を健康に過ごすためには、体の清潔を保つこと等が必要であること。
4	身の回りの環境 ○毎日を健康に過ごすためには、明るさの調節、換気等の生活環境を整えること等が必要であること

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・健康の保持増進には、手や足等の清潔、ハンカチや衣服等の清潔を保つことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。（知識）
- ・健康な生活について、運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔等の学習したことと、自分の生活を比べたり関連付けたりして、健康に過ごすために考えた方法を学習カード等に行ったり、発表したりして友達に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・健康な生活について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習や教科書や資料等を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (10分)	1 休憩時間の後には、どうして手洗いをする必要があるのかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">汚れているように見えない時でも、手洗いをする必要があるでしょうか。</div>	○学校生活を振り返り、手洗いをしたことを想起しながら考えさせる。
	2 ぬれた脱脂綿で手を拭いて気付いたことを発表する。	○汚れているように見えなくても、汚れていることがあることを確認させる。 ○活動の趣旨を理解させ、中傷することがないよう配慮する。
	どうして体を清潔に保つ必要があるのかを考えよう	
	3 手以外に汚れやすい場所を考える。	○「元気さん」（人の絵）を掲示する。

展開 (30分)	<p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・汗をかくから、頭や顔は汚れやすい。 ・大便や小便が出るから、お尻等は汚れやすい。 ・身にまとっている衣服も汚れているのではないだろうか。 <p>4 下着に付いた汚れの染め出し実験の結果を観察し、気付いたことを発表する。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・汗を吸収しやすい部分が濃い色になっている。 ・全体的に色が変わっている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 汗を吸収しやすい部分以外の場所は、どうして汚れているのでしょうか。 </div> <p>5 小さくて目に見えない菌について知る。</p> <p>6 汚れた体や衣服をそのままにするとどうなるのかを考え、「元気さん」にアドバイスをする。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汗をかいてそのままにすると、体が冷えて、風邪を引いたり、お腹を壊したりしやすくなる。 ・髪の毛や皮膚は汚れたままにしておくと、かゆくなることがある。 ・汚れたままにしておくと、細菌が増殖したり、嫌な臭いのもとになったりする。 ・病原体がついた手で食事をすると、病気のもとになる場合がある。 	<p>○「元気さん」の汚れやすい場所を示させるようにし、選んだ理由についても考えさせる。</p> <p>○授業前に実験を録画しておく。</p> <p>○襟や袖等の汚れやすい部分以外の汚れについて、どうして汚れているのかを考えさせる。</p> <p>○細菌が要因となり、病気になる場合もあることを説明する。</p> <p>○「元気さん」の様子を掲示する。</p> <p>○個人思考後にグループで話し合わせることで、意見を出しやすくさせる。</p> <p>○発表で足りない部分がある場合は、教師の話で捕捉する。</p> <p>◆【知識・技能】 健康の保持増進には、手や足等の清潔、ハンカチや衣服等の清潔を保つことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

①

<p>まとめ (5分)</p>	<p>7 学習のまとめをする。 ・学習カードに自身の生活を振り返って、体や衣服を清潔に保つために、どのようなことに気を付けたらよいのかを記入し、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>あなたの生活を振り返って、体や衣服を清潔に保つためにできることは何ですか。学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<p>○前時に学習した「けんこうな一日の生活」と関連付けて、学習カードに自分の言葉で書くように促す。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 健康な生活について、運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔等の学習したことと自分の生活を比べたり関連付けたりして、健康に過ごすために考えた方法を学習カード等書いたり発表したりして友達に伝えている。 (発言・学習カード)</p> <p>○児童の発表に対して補足説明を行う。</p>
---------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 指導のポイント

特別活動においては、学級活動（２）「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」及び「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と関連を図ることができる。例えば、運動・食事・休養及び睡眠の調和のとれた生活、手洗いや衣服等の清潔、明るさの調節や換気の仕方等について、自分の生活の振り返りや対話等を通して見つけた課題を解決するために、改善しなければならないことを、具体的に実践できるように支援していくことが求められる。

また、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題として「健康」に焦点を当て、「毎日の健康な生活」を探求課題として設定し、具体的な学習内容としては、「健康な生活を送るためにできることを考えよう」や「これからの生活を健康に送るためのめあてを決めよう」等で、単元構成を考えることができる。

指導事例 2 病気の予防

対象：第6学年

教科等：体育科保健領域

★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「病気の予防」

(3) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 病気の予防について理解すること。

(イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

イ 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

1 単元の目標

- (1) 病気の起こり方、病原体が主な要因となって起こる病気の予防、生活行動が主な要因となって起こる病気の予防、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、地域の様々な保健活動の取組について、理解することができるようにする。
- (2) 病気を予防するために、課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 病気の予防について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

2 単元について

本単元では、病原体が主な要因となって起こる病気や生活行動が主な要因となって起こる病気を取り上げ、病気の起こり方の4つの要因と解決のための基礎的事項を理解させる。そして、病気の予防に関する課題を見つけ、よりよい解決に向けた方法を考え、適切に選択したことを友達に説明できるようにするとともに、生涯にわたって自己の健康を保持増進するために進んで取り組む態度につながる資質・能力を身に付けさせたい。

また、学習指導要領の内容の取扱いにおいて、「各領域の内容については、運動領域と保健領域との関連を図る指導に留意すること」と記述されていることから、特に全身を使った運動を日常的に行うことが、大人になってからの病気の予防方法としても重要であること、各運動領域で学習したことをもとに日常的に運動に親しむこととの関連を具体的に考えさせたい。

さらに、個人の健康と地域社会のつながりに関わって、地域の様々な保健活動の取組について理解させ、小学校の保健領域のまとめとして、中学校の保健分野への橋渡しとなるような指導を行いたい。

①

3 単元計画

時	学習内容
1	病気の起こり方 ○病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こること。
2 (本時)	病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ○病原体が主な要因となって起こる病気には、インフルエンザや結核、麻疹、風疹等があること。 ○その予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
3	生活行動が主な要因となって起こる病気の予防① ○生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気があること。 ○その予防には、日常的な運動習慣と望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
4	生活行動が主な要因となって起こる病気の予防② ○生活行動が主な要因となって起こる病気には、むし歯や歯ぐきの病気があること。 ○その予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
5	喫煙と健康 ○喫煙は、健康を損なう原因となること。
6	飲酒と健康 ○適量を超える飲酒は、健康を損なう原因となること。
7	薬物乱用と健康 ○薬物乱用は、健康を損なう原因となること。
8	地域の様々な保健活動の取組 ○保健所や保健センター等では、予防接種等保健に関わる様々な活動が行われていること。

4 本時の指導（全8時間中の2時間目）

(1) 目標

- ・ 病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体の発生源をなくしたり、うつる道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。(知識)
- ・ 病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり適切な方法を選んだりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 病気の予防について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習や教科書等を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 「学級閉鎖」の事例から、その原因について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>欠席者が一人いました。次の日、同じ理由で欠席者が増え、その後、学級閉鎖となりました。上記の事例で、学級閉鎖になった原因の病気は何だと思えますか。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ ・コロナウイルス感染症 ・ノロウイルス感染症 <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原体に感染して病気になることを確認する。 	<p>○身近な問題として捉えられるように、「学級閉鎖」の事例を挙げる。</p> <p>○活動の趣旨を理解させ、差別や偏見につながることはないよう配慮する。</p> <p>○インフルエンザウイルス、ノロウイルス等の病原体の写真を提示する。</p>
展開 (30分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>病原体が主な原因となって起こる病気の予防方法を考えよう</p> </div> <p>2 インフルエンザにならなかつた人がいたことから、その理由について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>インフルエンザにかからなかつた A さんの秘密を見つけよう。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスクをしていた。 ・手洗いやうがいをしていた。 ・予防接種を打っていた。 <p>(学習内容)</p> <p>【病原体をなくす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加熱して殺菌する。 ・日光で消毒する。 ・薬品を使って消毒する。 <p>【体の抵抗力を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスがよい食事をとる。 ・適度な運動をする。 	<p>○ブレインストーミングにより、多様な考えが出るようにする。</p> <p>○Aさんは架空の人物とする。</p> <p>○全体で出た意見を整理する。</p> <p>○「病原体をなくす」、「体の抵抗力を高める」、「病原体のうつる道筋を断ち切る」等の項目に分けて整理する。</p>

①

	<p>【病原体のうつる道筋を断ち切る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスクをする。 ・部屋の換気をする。 <p>3 インフルエンザ、結核、麻疹、風疹の感染経路について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>様々な病原体を予防するために自分に何ができるかを考えましょう。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人ごみを避ける。 ・マスクをつける。 ・手洗いやうがいをする。 	<p>○意見が出にくい場合は、Aさんの生活の様子分かる挿絵を用意し、「病原体をなくす」、「体の抵抗力を高める」、「病原体のうつる道筋を断ち切る」について理解を深めることができるようにする。</p> <p>○「接触感染」、「飛沫感染」、「空気感染」について、表にまとめたものを提示する。</p> <p>○エイズの感染経路を示す場合は、血液感染等についても触れる。</p> <p>◆【知識・技能】</p> <p>病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体の発生源をなくしたり、うつる道筋を断ち切ったりして、病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (発言・ワークシート)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 事例に対するアドバイスを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達と映画館に行こうと考えていますが、インフルエンザが流行してきています。どのようなアドバイスをしてあげますか。</p> </div>	<p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由をあげて学習カードに書いたり、友達に伝えたりしている。 (発言・ワークシート)</p>

5 指導のポイント

本時の「思考・判断・表現」の評価は、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり、適切な方法を選んだりして学習カードに記入している状況の評価する。

具体的には、本時ではインフルエンザを取り上げ、病原体が主な原因となって起こる病気の予防の学習を行う。展開の初めには、インフルエンザにならなかった人がいたのはなぜかを予想させ、その理由については、前時の学習である「病気の起こり方」を想起させる。特に、全体で意見を出す際には、「抵抗力を高める」、「感染経路を断ち

切る」、「病原菌をなくす」等の項目に分けて整理することで、適切な予防方法が選びやすくなる。

続いて、インフルエンザ以外の病原体が主な要因となって起こる病気の予防について理解させるために、「感染経路」、「感染力」を表にまとめたものを提示する。

本時のまとめでは、インフルエンザに関する事例に対するアドバイスを考え、適切な予防方法を選んで学習カードに書かせるようにする。

また、本単元は、学級活動（2）「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」及び、「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と関連を図ることができる。例えば、「望ましい生活習慣」や「一日に必要なカロリー」、「栄養のバランスがとれた食事のとり方」、「ウイルスから身を守ろう」等を取り上げ、生活全体を見直すことにつなげていくことが考えられる。また、自分の健康だけでなく、家族の健康も考えて、「健康な生活を送るために家の人にアドバイスしよう」という活動にも発展させることが可能である。

さらに、保健委員会の活動等とも関連させ、「感染予防に対する情報発信活動」等に取り組むことで、より一層の効果が期待できる。

①

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
3年	体育	<p>健康な生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進には、手や足等の清潔、ハンカチや衣服等の清潔を保つことが必要であることについて理解する。 健康な生活について、運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔等の学習したことと、自分の生活を比べたり関連付けたりして、健康に過ごすための方法を考える。 健康な生活について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習、教科書や資料等を調べるとともに自分の生活を振り返る。
6年	体育	<p>病気の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体の発生源をなくしたり、うつる道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて理解する。 病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、学習したことを活用して、予防の方法を考えるとともに適切な方法を選ぶ。 病気の予防について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習、教科書等を調べるとともに自分の生活を振り返る。

教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	特別活動★	<p>せいけつなからだ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体の汚れやすいところに気付き、部位に応じて清潔を保つ方法が異なることを理解する。 水着で隠れるところ（胸、性器、尻）と口については、自分だけの大切な場所として、清潔及び安全の両側面から守る方法を理解する。

体を清潔にすることは、よりよい健康を保つために大切であり、感染症の予防等にもつながる行為であることを理解することができる。

また、自分の生活を振り返り、体を清潔にすることの大切さや清潔に保つ方法について考えることを通して、健康の保持増進や感染症の予防のために、自分に合った方法で体をきれいにしていくための実践につながることを期待できる。

指導事例 3 せいけつな体

対象：第1学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

1 題材の目標

自分の体の汚れやすいところに気付き、体を清潔にする方法を考えるとともに、自分に合った体の清潔を保つ方法を見つけて実践することができるようにする。

2 題材について

思春期に入る前の体を理解し、大切にするための習慣として、第1学年では、体を清潔にすることや下着を毎日変えることを含め、生活全般にわたって基本的な生活習慣を育成していくことが重要である。日常生活において、目に見える汚れは捉えやすい反面、目に見えない汚れは認識できないことにより、清潔を保つ行動につながりにくい。低年齢のうちから、自分の体の汚れやすい部位を理解し、部位に応じた清潔を保つための方法を生活の中で実践できるようにすることをねらいとする。その際、自分だけの大切なところについては、清潔のみならず、安全にも配慮しようとする気持ちを育むことができるよう指導する。

3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
給食の時間に手洗いの大切さについて話を聞く。	○手洗いをしていない手で食事をとることにより体調不良を引き起こす可能性があることを例示し、食事の前の手洗いの大切さと病気の予防について理解させる。
ワークシートを記入する。	○体の清潔を保つための方法を振り返るとともに、清潔を保つために日常生活で工夫していることを考えることを知らせる。

	<p>5 自分だけの大切なところを守る方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人に見せたり触らせたりしない。 ・他人を蹴ったり叩いたりしない。 	<p>○自分だけの大切なところを誰かが見ようとしたり、触ろうとしたら「嫌」と言うこと。また、むやみに人に見せたり、触らせたりしないことが大切であることをおさえる。</p>
決める	<p>6 「自分の体を大切にする方法」について、自分の目標を決めてワークシートに記入し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔を保つ方法 ・安全に過ごす方法 	<p>○清潔と安全の両側面から自分の目標を考え、日常生活で実践できるよう支援する。 ※ワークシートは事後の指導につなげる。</p>

5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
毎日の生活を振り返り、ワークシート「からだをたいせつに」に一週間記録する。	○毎日の生活を振り返り、清潔を保ち、安全を守るために実践したことをチェックリストに記録させる。
一週間の実践の成果を帰りの会で発表する。	○がんばったこと、気を付けたこと、発見したこと等について、ワークシートに記入し、発表の準備をするよう知らせる。

6 指導のポイント

家庭によって生活様式に違いがあるため配慮をするとともに、自分だけでなく、友達の清潔や安全についても関心を持てるように指導する。また、自分だけの大切なところについては、指導事例 9「自分の体を守ろう」につながることから、肯定的な雰囲気の中で指導し、今後の性に関する指導に対して前向きに取り組むことができるよう配慮する。

まとめのワークシート

	<自分のもくひょう>	月	火	水	木	金	土	日	
きれいにする方法	かえったら、てをあらう。								
	はみがきをする。								
	あさ、かおをあらう。								
	お風呂で自分だけの大切なところをあらう。								
安全に過ごす方法	自分だけの大切なところを人にみせない。								
	自分だけの大切なところを人にさわらせない。								
「がんばったこと」、「きをつけたこと」、「はっけんしたこと」をかきましょう。									

②

指導事例 4 体の成長とわたし

対象：第4学年

教科等：体育科保健領域

★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「体の発育・発達」

(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達について理解すること。

(イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

イ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

1 単元の目標

- (1) 年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようにする。
- (2) 体の発育・発達について、課題を見つけ、その解決に向けて考え、それを表現することができるようにする。
- (3) 体の発育・発達について、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。

2 単元について

本単元では、思春期の体つきの変化や初経・精通を大人の体に近づく具体的な現象として捉えさせ、近い将来起こった時に不安にならないよう指導する。また、体つきに変化が現れていない児童は実感がなく、変化し始めている時期の児童は恥ずかしいと思いがちである。したがって、自分の体の変化や個人による発育の違い等については、自分のこととして実感させるとともに肯定的に受け止めさせるよう配慮するものとする。さらに、単元の最後に思春期の体の発育・発達には、適切な運動、食事、休養及び睡眠等が必要であることについて、学んだことを自分の生活と関連付けて考えることで、現在における自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。

3 単元計画

時	学習内容
1	体の発育・発達 ○体は年齢に伴って変化すること。 ○体の発育・発達には個人差があること。
2 (本時)	思春期の体の変化① ○思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。

	○思春期には変声や発毛が起こること。 ○変化の起こり方は、人によって違いがあること。
3	思春期の体の変化② ○思春期には初経や精通が起こること。 ○異性への関心も芽生えること。 ○個人差はあるものの、大人の体に近づく現象であること。
4	体をよりよく発育・発達させるための生活 ○体をよりよく発育・発達させるためには、適切な運動、食事、休養及び睡眠等が必要であること。

4 本時の指導（全4時間中の2時間目）

（1）目標

- ・ 思春期になると次第に大人の体に近づき、人によって違いがあるものの、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛が起こること等について、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。（知識）
- ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。
（学びに向かう力、人間性等）

（2）展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入（5分）	<p>1 シルエットクイズを行い、男女の体つきの違いについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どちらの写真が男子か女子か、わかるかな。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の時は、後ろ姿だと男女の区別が分かりにくい。 ・ 大人だと分かりやすい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>思春期とは、どういうことか覚えていますか。</p> </div>	<p>○体つきの変化が分かるように、小1の男女及び大人の男女のシルエット姿の写真を用意しておく。</p> <p>○気付いた理由についても触れて聞く。</p> <p>○前時の身長伸びの学習を想起させ、「発育が盛んな時期」を思春期であると学習したが、「大人の体に変化していく時期」も「思春期」の特徴であることを伝える。</p>

思春期には、体にどのような変化が起こるのかを考えよう	
展開 (30 分)	<p>2 思春期に起こる男女の体の変化について話し合う。</p> <p>①グループに配られた用紙に、男子の変化に当てはまるカードは男子のスペースに、女子の変化に当てはまるカードは女子のスペースに、両方の変化に当てはまるカードは両方のスペースに置いていく。</p> <p>②黒板にグループの考えを貼り全体で確認する。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期には、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。 ・思春期には変声や発毛が起こること。 ・男子は声が低くなること。 <p>○恥ずかしさを軽減するため、ゲーム感覚を持たせ、思春期になると、体つきや体になどのような変化があるのか、自分の生活をもとにグループで話し合うよう指示する。</p> <p>○それぞれのグループが考えた変化カードの結果を黒板に貼り、正答の多いところから全体で確認していく中で、意見が割れたところはなぜそう思ったのか理由を聞きながら進める。</p> <p>○発毛については、男女両方に起こる発毛や男子のひげ等の発毛があることを伝える。</p> <p>○体つきの変化以外の変化もあることを伝える。</p> <p>○全体の確認後、思春期は、大人の体に近づくことで体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れることや変声や発毛等が起こること等をおさえる。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 体の発育・発達について、身長や体重等の年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見つけている。(発言・学習カード)</p>

	<p>3 体の変化が起こる時期や起こり方について知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化の起こり方は、人によって違いがあること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思春期の体つきの変化が起こる時期は、前時の身長の時と同じように一般的に男女差があり、人それぞれ違うことを伝える。 ○ひげを例に、目立つ人がいたり、そうでない人がいたりするように、変化の起こり方も人それぞれ違うことを伝える。
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに思春期に起こる体の変化について記入し、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えた自分の体はどのように変化していきますか。 今日、学習した思春期に起こる変化を学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードにこれからの自分の体の変化を想像させ、思春期に起こる男女の体の変化や起こる時期、起こり方は人それぞれ違うこと等を自分の言葉でまとめるよう促す。 ○児童の発言に対して補足説明を行う。 ○学習をしてみて質問したいこと、不安や心配ごとがあればいつでも相談してよいことを伝える。 <p>◆【知識・技能】</p> <p>思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</p>

②

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・ 思春期になると人によって違いがあるものの、変声、発毛、初経、精通等が起こること、また、異性への関心が芽生えること等について、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。(知識)
- ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 前時を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大人に近づくとつれて、体はどのように変わっていったのかを覚えていますか。</p> </div> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わきの下や性器の周りに、毛が生えてくる。 ・ 男性は声が低くなる。 ・ 女性は胸が膨らんでくる。 	<p>○前時の学習を提示し、振り返る。</p>
展開 (35分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>思春期には、体の変化のほかにもどのような変化が起こるのかを考えよう</p> </div> <p>2 思春期には、体の働きにどのような変化が起こるのかを調べる。</p> <p>3 初経、精通について知る。</p> <p>4 初経、精通について学習カードにまとめる。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子は初経、男子は精通が起こる。 ・ これらの変化が起こる時期には個人差がある。 	<p>○思春期に見られる体の働きの変化を肯定的に受け止めることができる雰囲気をつくる。</p> <p>○資料から体の働きの変化を調べるよう知らせる。</p> <p>○初経と精通については、簡潔に現象を説明する。</p> <p>○初経や精通を経験している人がいることから、人によって時期は違うが、近い将来、自分にも起こることを自覚させる。</p>

<p>5 思春期の心の変化について経験したことや見たことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の変化の例を参考に、思春期に起こる心の変化について考える。 <p>6 思春期の心の変化について学習カードにまとめる。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異性のことが気になる。 ・女子と男子で意見が合わない。 ・異性に冷たくしてしまう。 <p>7 思春期を迎えるに当たっての今の気持ちや思春期になって悩んでいる友達がいた時のアドバイスの仕方について考える。</p> <div data-bbox="316 1659 762 1933" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えるに当たっての今の気持ちと思春期になって悩んでいる友達にかけられる言葉を考えましょう。</p> </div>	<p>○個人で考える時間とグループで意見を交換する時間をとり、意見を出しやすくする。</p> <p>○少人数グループで話し合うことにより、安心して意見を出せるようにする。</p> <p>○異性とは、女子から見て男子のこと、男子から見て女子のことであるが、関心を持つ対象は異性だけに限らないことにも触れる。</p> <p>○人の体や心の変化には個人差があることを認め合い、支え合うことのできるよさを受け止められるようにする。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことを学習カード等に行ったり、発表したりして友達に伝えている。(発言・学習カード)</p> <p>○学習カードにこれからの自分の体の働きの変化や心の変化を想像させる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに思春期に起こる心の変化と友達へのアドバイスについて記入し、ロールプレイをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○悩んでいる役と相談役とのどちらも行わせることで、どちらの立場についても考えさせる。
<p>まとめ (5分)</p>	<p>8 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに思春期に起こる体の変化を記入し、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えた自分の体はどのように変化していきますか。今日、学習した思春期に起こる変化を学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○発表で足りない部分がある場合は、教師から補足する。 ○学習カードにこれからの自分の体の変化を想像させ、思春期に起こる男女の体の変化や起こる時期、起こり方は人それぞれ違うこと等を自分の言葉でまとめるよう促す。 ◆【知識・技能】 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えること、これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード) ○学習をしてみて質問したいこと、不安や心配ごとがあればいつでも相談してよいことを伝える。

5 指導のポイント

本単元では、発達段階を考慮して、まだ自分のこととして捉えることができない児童にも、これから自分の体に起こることであるという意識を持たせるようにする。

また、特別活動においては、学級活動(2)「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」及び「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と関連付けることができる。例えば、心身の発育・発達や発育・発達によい生活習慣、よりよく発育・発達するための望ましい食習慣等の指導につなげていくことも有効である。

さらに、「生命」の尊さを考える総合的な学習の時間の単元構成を考えることができる。人の生命のはじまりから奇跡的な自分の生命の誕生について知り、自分がかげがえのない存在であることに気付くことで自他の生命の大切さを考えさせる。また、自分史を作成させることを通して、かけがえのない生命は、多くの人に支えられ存在することを理解させ、未来の自分につながっていることに気付かせることも可能である。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
4年	体育	<p>体の発育・発達</p> <p>思春期の体の変化①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期になると次第に大人の体に近づき、人によって違いがあるものの、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れること、変声や発毛が起こること等について理解する。 ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考える。 ・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付く。 <p>思春期の体の変化②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期になると人によって違いがあるものの、変声、発毛、初経、精通等が起こること、また、異性への関心が芽生えること等について理解する。 ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考える。 ・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付く。

教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
2年	生活	<p>自分自身の生活や成長に関する内容</p> <p>大きくなった自分をふりかえろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学してからの2年間の学習や生活を振り返り、自分自身の成長に関心を持つとともに、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたこと等に気付く。 <p>自分についてしらべよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が小さかった頃のことを家の人や世話になった人に聞いたり、友達と良いところを認め合ったりして、自分の良さを自覚し、多くの人々の支えにより、自分が成長したことに気付く。 <p>自分のせい長をまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の成長を表すのに適切な出来事を選び、その内容や伝えたい相手に合わせた表現方法でまとめる。 <p>ありがとうをとどけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の成長には、多くの人々の支えがあったことに気付く、それらの人々に感謝の気持ちを伝える。

		<p>性に関する指導の視点 自分の成長を支えてくれた人々がいることに気付き、感謝の気持ちを持つことで、これからの自分の生活や成長に願いを持って意欲的に生活しようとする態度を育むことができるようにする。</p> <p>ワンポイントアドバイス 一人一台端末等を活用し、入学してから撮影した学校行事や授業風景等の写真や動画を集めて、スライドショーにすることでそれぞれの成長の様子を振り返ることができます。</p>
4年	特別活動★	<p>こんにちは わたしたちの思春期</p> <p>(男女共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期における体の変化について正しく理解するとともに、誤解や不安を取り除き、自他の成長を肯定的に捉える。 <p>(男子編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期における体の変化のうち、男子の変化について理解するとともに、誤解や不安を取り除き、自他の成長を肯定的に捉える。 <p>(女子編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期における体の変化のうち、月経の役割を理解するとともに、月経時に正しい方法で手当を行う。
5年	理科	<p>動物の誕生</p> <p>ヒトのたんじょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒトの誕生について、調べ学習の見通しを持つ。 <p>ヒトの受精卵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒトの受精卵が母親の体内で育つ様子について、自分の課題を持ち、調べ学習を進める。 ・ 調べたことをもとにして発表資料を作成し、発表したり聞いたりしながら、生命の連続性を感じる。 <p>性に関する指導の視点 ヒトも他の生物と同様に子が親になり、また、子を生むことによって生命を受け継いでいることに気付けるようにし、子供自身も長きにわたって受け継がれてきた命であることを捉えられるようにする。</p> <p>ワンポイントアドバイス エコー写真や成長を記録した写真資料、また、映像資料や模型等を活用することで、「胎児」が成長していく様子を具体的に理解することができます。</p>

6年	家庭	<p style="text-align: center;">自分の成長と家族・家庭生活</p> <p>家族や地域の一員として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族が地域の人々とどのように関わっているかを考える。 ・ 私から地域につなげよう！広げよう！ ・ 2年間の学習を生かして、地域や家庭をよりよくする工夫を考える。 <p>もっとかがやくこれからの私たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の一員として家庭や地域でできることを考える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>性に関する指導の視点</p> <p>家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くとともに、どのような家庭生活を送りたいのかを考え、家族に協力して生活を営むことができるようにする。</p> <p>ワンポイントアドバイス</p> <p>これまで家族が自分に対してしてきたこと、また、自分が家族に対してしてきたことを考えることで、「してもらう自分」から「できる自分」への成長を実感し、自己肯定感を高めることにつながります。</p> </div>
----	----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

生命の誕生や体の発育・発達における個人差、思春期の体の変化、性への関心の芽生え、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができる。

また、自分の成長を見つめ、自他の生命の大切さについて考えることを通して、心身の発育・発達等を肯定的に捉え、自他の生命を大切にしようとする態度を育成することが期待できる。なお、性的マイノリティの児童にとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。

②

指導事例 5 - ① こんにちは わたしたちの思春期 (男女共通)

対象：第4学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

1 題材の目標

自らの性についての誤解や不安を取り除き、体の変化や仕組みを理解することで自他の性を肯定的に捉え、落ち着いて思春期を迎えることができるようにする。

2 題材について

思春期になると大人への体の変化は基本的に誰もが経験することであり、第4学年になるとその入り口に差しかかる。体育科では「思春期にあらわれる体の変化」について学習するが、体の変化には性差や個人差があり、不安や悩みを抱えたり、友達との違いが気になったりする児童も多い。

性毛の発毛や精通・初経等の第二性徴、また、それに伴う悩みについて丁寧に指導し、自らの体の変化を受け止め、個人差があるそれぞれの成長を尊重することができる態度の育成を目指す。

3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
事前アンケートに、体の変化についての意識や不安・悩みを記入する。	○第二性徴に関する児童の実態を把握する。

4 本時の指導

(1) 目標

思春期における体の変化について正しく理解し、誤解や不安を取り除くとともに、自他の成長を肯定的に捉えることができるようにする。

②

決める	8 思春期を迎えるに当たって、自分が心掛けたいことを決め、ワークシートに記入する。	○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。
-----	-------------------------------------------	-------------------------------------

5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
○授業を振り返り、ワークシートに感想や疑問に思ったことを記入する。	授業前後で思春期に対する気持ちにどのような変化があったかを個々に振り返らせる。

6 指導のポイント

第二次性徴については、体育科「育ちゆく体とわたし」において、男女共習で指導している。一方で、男女別を実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。実施に当たっては、児童の実態を踏まえ、男女別か男女共習かを選択するとともに、家庭との連携を図るため、保護者会や学級だより等を通じて保護者に知らせる。また、性的マイノリティにとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。さらに、「生命（いのち）の安全教育」と関連付けることで、指導の充実を図ることができる。

指導事例 5 - ② こんにちは わたしたちの思春期（男子編）

対象：第4学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

1 題材の目標

自らの性についての誤解や不安を取り除き、体の変化や仕組みを理解することで自他の性を肯定的に捉え、落ち着いて思春期を迎えることができるようにする。

2 題材について

思春期になると大人への体の変化は基本的に誰もが経験することであり、第4学年になるとその入り口に差しかかる。体育科では「思春期にあらわれる体の変化」について学習するが、体の変化には性差や個人差があり、不安や悩みを抱えたり、友達との違いが気になったりする児童も多い。

男子の発育も個人差が大きいため、性毛の発毛や変声、射精等の男子特有の体の働き等成長に伴う悩みについて丁寧に指導し、自らの体の変化を受け止め、個人差があるそれぞれの成長を尊重することができる態度の育成を目指す。

3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
事前アンケートに、体の変化についての意識や不安・悩みを記入する。	○第二次性徴に関する児童の実態を把握する。

4 本時の指導

(1) 目標

思春期における体の変化について正しく理解し、誤解や不安を取り除くとともに、自他の成長を肯定的に捉えることができるようにする。

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 思春期に起こる体の変化について知る。	○思春期は男性ホルモンの分泌によって、体や心に様々な変化が起き、子供から大人へ成長していく時期であることを説明する。

②

思春期の体の変化への不安や悩みについて考えよう		
さぐる	<p>2 男子の体の変化や仕組みを確認する。</p> <p>3 体の変化が起きる理由を考える。</p>	<p>○体育科保健領域で学習した内容をもとに、アンケートから見えてきた実態を踏まえ、第二性徴について確認させる。</p> <p>○それぞれの体の変化に触れ、感じ方や捉え方には個人差があることを説明する。</p> <p>○「精通」や「初経」は新しい生命を作るための体の仕組みで、健康な発育の証であることを理解させる。</p> <p>○出産は女子のみができる尊いものであることを伝える。</p> <p>※児童の実態を踏まえ、男子は、高まる性衝動のコントロールや男女が一緒に生活する上で、女性の辛さを理解する力が求められることについても触れる。</p>
見つける	<p>4 それぞれのケースについて、どのように声掛けをするかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>5 発表して意見を交流する。</p>	<p>○事前アンケートから多くの児童が悩んでいる内容を取り上げる。</p> <p>○体の成長には個人差があることを伝え、友達と自分の体を比べて不安になったり、友達の体の変化について指摘したりしないことを伝える。</p> <p>○自分だけの大切な場所を守るためのルールについて確認する。</p>
決める	<p>6 思春期を迎えるに当たって、自分が心掛けたいことを決める。</p>	<p>○体の変化を肯定的に捉えるために心掛けたいことをワークシートに記入させる。</p> <p>○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。</p>

5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
授業を振り返り、ワークシートに感想や疑問に思ったことを記入する。	○授業前後で思春期に対する気持ちにどのような変化があったかを個々に振り返らせる。

6 指導のポイント

第二次性徴については、体育科「育ちゆく体とわたし」において、男女共習で指導している。一方で、男女別に実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。実施に当たっては、児童の実態を踏まえ、男女別か男女共習かを選択するとともに、家庭との連携を図るため、保護者会や学級だより等を通じて保護者に知らせる。また、性的マイノリティにとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。さらに、「生命（いのち）の安全教育」と関連付けることで、指導の充実を図ることができる。

②

指導事例 5 - ③ こんにちは わたしたちの思春期（女子編）

対象：第4学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

1 題材の目標

自らの性についての誤解や不安を取り除き、体の変化や仕組みを理解することで他の性を肯定的に捉え、落ち着いて思春期を迎えることができるようにする。

2 題材について

思春期になると大人への体の変化は基本的に誰もが経験することであり、第4学年になるとその入り口に差しかかる。体育科では「思春期にあらわれる体の変化」について学習するが、体の変化には性差や個人差があり、不安や悩みを抱えたり、友達との違いが気になったりする児童も多い。

初経を迎える女子も増えてくる時期であることから、月経時の手当の仕方や成長に伴う悩みについて丁寧に指導し、自らの体の変化を不安なく受け止め、個人差があるそれぞれの成長を尊重することができる態度の育成を目指す。

3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
事前アンケートに、体の変化についての意識や不安・悩みを記入する。	○第二次性徴に関する児童の実態を把握する。

4 本時の指導

(1) 目標

思春期における体の変化のうち、月経について理解するとともに、月経時に正しい方法で手当を行うことができるようにする。

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 思春期に起こる体の変化について知る。	○思春期は女性ホルモンの分泌によって、体や心に様々な変化が起き、子供から大人へ成長していく時期であることを説明する。

月経時の正しい手当の仕方を知ろう		
たづねる	<p>2 女子の体の変化や仕組みを確認する。</p> <p>3 月経の仕組みを知る。</p> <p>4 体の変化が起きる理由を考える。</p> <p>5 月経用ナプキンの使い方を知る。</p> <p>6 月経時の過ごし方について知る。</p> <p>7 学校で急に月経が始まったらどう対処したらよいか、話し合う。</p>	<p>○体育科保健領域で学習した内容をもとに、アンケートから見えてきた実態を踏まえ、第二次性徴について確認させる。</p> <p>○男子の体の変化にも触れ、男子が受けている指導の内容の概要を説明する。</p> <p>○正常な月経の目安について触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月経の開始：12歳頃 ・月経血量：20～140g ・凝血：なし ・周期：25～38日（変動6日以内） ・持続日数：3～7日 <p>「学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル」（公財）日本産婦人科医会</p> <p>○「初経」や「精通」は新しい命を作るための体の仕組みで、健康な発育の証であることを理解させる。</p> <p>○出産は女子のみができる尊いものであることを伝える。</p> <p>○ナプキンの使い方を説明する。</p> <p>○様々な種類のナプキンを用意し、用途等によって使い分けるとよいことを知らせる。</p> <p>○月経困難症や月経前症候群（PMS）等について触れる。</p> <p>○体の成長には個人差があることを伝え、友達と自分の体を比べて不安になったり、友達の体の変化について指摘したりしないことを伝える。</p>
決める	<p>8 思春期を迎えるに当たって、自分が心がけたいことを決め、ワークシートに記入する。</p>	<p>○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。</p>

②

5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
授業を振り返り、ワークシートに感想や疑問に思ったことを記入する。	○授業前後で思春期に対する気持ちにどのような変化があったのかを個々に振り返らせる。

6 指導のポイント

第二次性徴については、体育科「育ちゆく体とわたし」において、男女共習で指導している。一方で、男女別に実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。実施に当たっては、児童の実態を踏まえ、男女別か男女共習かを選択するとともに、家庭との連携を図るため、保護者会や学級だより等を通じて保護者に知らせる。また、性的マイノリティにとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。さらに、「生命（いのち）の安全教育」と関連付けることで、指導の充実を図ることができる。

指導事例6 心の健康

対象：第5学年

教科等：体育科保健領域

★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「心の健康」

(1) 心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。

(ウ) 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

イ 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

1 単元の目標

- (1) 心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処について、理解することができるようにするとともに、不安や悩みへの対処についての技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 心の健康について、課題を見つけ、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 心の健康について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

2 単元について

本単元では、心の健康について課題を見つけ、その解決を目指した活動を通して、心は年齢に伴って発達すること、心と体には密接な関係があり、深く影響し合っていることについて理解できるようにする。また、不安や悩みへの対処には様々な方法があることを理解するとともに、不安や悩みを緩和するための対処の方法を実際に行うことができるようにすることを目指している。

不安や悩みは誰もが抱えるもので、その場合、人に相談したり、運動したりするなど、自分に合った適切な方法を選び、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることで対処できることを理解できるようにする。その際、適切な方法を選んだり、それがなぜ適切なのかを説明したりする活動が大切である。また、体ほぐしの運動や呼吸法を指導するに当たっては、正しく行うだけでなく、その意味や目的を理解した上で主体的に取り組めるよう、発問や資料提示の工夫、対話的な活動を取り入れるなどの手立てを講じていく。また、体育科との関連において、体ほぐしの運動で取り扱った運動を用いることで、効率的なだけでなく、心と体との関係に改めて気付くことができ、学習が一層深まる。

③

3 単元計画

時	学習内容
1	心の発達 ○心は人との関わり、あるいは自然との触れ合い等様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達すること。
2	心と体との密接な関係 ○不安や緊張時には体調を崩しやすく、体調が悪い時は落ち込んだりし、体調がよい時は気持ちが明るくなったりするなど、心と体は深く影響し合っていること。
3 (本時)	不安や悩みへの対処①・② ○不安や悩みがあることは誰もが経験することであり、そうした場合、自分に合った適切な方法を選び、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることで対処できること。
4	○体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法等を行うこと。

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。(知識)
- ・不安や悩みへの対処について、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由を挙げて学習カードに書いたり、友達に伝えたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・心の健康について関心を持ち、学習活動に進んで取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 アンケートから5年生が抱える不安や悩みを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> クラスメイトはどのような悩みを抱えていると思いますか。 </div> <予想される反応> ・友達に関すること。 ・勉強に関すること。 ・習い事に関すること。 ・自分の体のこと。 ・自分の心(性格)のこと。	○単元開始前に、不安や悩みに関するアンケートを実施しておく。 ・アンケート項目に「自分の体や心(性格)のことで悩みがありますか」、「相手と話をしている、恥ずかしくて思い通りに話ができなかったことはありますか」等の質問を入れる。 ・事前にアンケートを行うことで、身近な問題として捉えられるようにする。

	<p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 不安や悩みは誰もが経験すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元前に行ったアンケート結果を提示する。 ○自分の悩みを打ち明けたくない児童がいることを考え、提示には配慮する。
<p>展開 (25分)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">不安や悩みへの対処の仕方について考えよう</p> <p>2 事例を用いてどのような対処の仕方があるかを考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友達関係について悩んでいる時に、どのような対処法があるかを考えましょう。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に相談する。 ・好きなことをする。 ・直接友達に話してみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の体や心のことで悩んでいる時に、どのような対処法があるかを考えましょう。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に相談する。 ・一人で考える。 ・気にしない。 <p>3 全体で出し合った意見を整理してまとめる。</p> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みを抱えたら、自分に合った適切な方法を選び、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることで対処すること。 	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">不安や悩みへの対処の仕方について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不安を感じて体の不調を訴えた時、どのような対処をしてきたかを想起するために前時の学習と関連付けて事例をおさえる。 ○様々なアイデアを出すために、自由な発想で意見を出させる。 ○「向き合う」、「発散する」、「リラックスする」、「相談する」等の項目に分けて整理する。 ○一人一人の感じ方の違いから、不安や悩みに応じて、自分に合った対処法を選ぶだけでなく、正しく行うことの大切さもおさえる。 ○必要に応じてLGBTQ等についても補足説明を行う。 <p>◆【知識・技能】</p> <p>不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</p>

まとめ (10分)	4 自分の不安や悩みについて、学習をもとに適切な対処の仕方を選んで書くことで、学習のまとめをする。	○前時に扱った不安や悩みのまとめを再活用し、不安や悩みへの対処方法について、本時の活動を踏まえて書くようにする。 ・自分の不安や悩みへの対処について、書くことが難しい児童に対しては、事例内の児童に対するアドバイスを考えさせる。 ◆【思考・判断・表現】 不安や悩みへの対処について、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由を挙げて学習カードに書いたり、友達に伝えている。(発言・ワークシート)
--------------	---------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 指導のポイント

本時の「思考・判断・表現」の評価は、学習したことを活用して、不安への対処の方法を考えたり、適切な方法を選んだりして学習カードに記入している状況の評価する。

具体的には、子供たちにとって身近な問題である「友達関係」についての事例に対する対処の方法を考えさせる。ブレインストーミングで自由に意見を出し合った後、「向き合う」、「発散する」、「リラックスする」、「相談する」等の項目に分けて整理させることで、対処の方法を選びやすくさせる。

本時のまとめでは、自分の悩みについて学習したことをもとに適切な対処の仕方を選んで学習カードに書き出させる。その際、自分の悩みをもとにすると、書きにくい児童に対しては、事例内の児童にどのようなアドバイスをするとよいかを考えさせ、学習カードに書き出させる。また、本時の学習を踏まえて、本単元は学級活動(2)「イ よりよい人間関係の形成」や「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」等と関連付けることができる。例えば、学級活動において、互いのよさを見つけ、互いを尊重し合い、仲よくしたり信頼したりして生活することを学習したり、児童会活動やクラブ活動での異学年の児童とのかかわり、学校行事での体験について実感を伴ったものにししたりするなど、本学習を通して特別活動の自分にとっての意義を再構築することにもつながる。

さらに、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題として「健康」に焦点を当て、保健の学習において身に付けた「知識や技能」、「心の健康との健康な生活」を学習対象とし、学習事項としては、「健康な生活を送るためにできることを考えよう」や「これからの生活を健康に送るためのめあてを決めよう」等で、単元構想を考えることができる。

本単元を自分や身の回りの心の健康に関する課題について課題解決を図る総合的な学習の時間の導入単元として位置付けることで、学習の成果をさらに高めていくことができる。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
5年	体育	<p>心の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて理解する。 不安や悩みへの対処について、自分の経験と学習したことを関連付けて考える。 心の健康について関心を持つ。

教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
6年	特別活動 ★	<p>いろいろな性について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な性があることを知り、性に縛られない「その人らしさ」を尊重することで、互いのよさを見つけ、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さを理解する。

心の発達、心と体の相互の影響、不安や悩みへの対処の仕方、多様な性があることについて理解できるようにする。

また、自分の心を見つめることを通して、自他を大切にする心情を育むとともに、自分の心の状態に合った適切な行動の仕方を選択したり、考え方を変えたりする力を育成することが期待できる。

③

指導事例 7 いろいろな性について知ろう

対象：第6学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼しあったりして生活すること。

1 題材の目標

一人一人外見や性格が違うように性も多様であることを知り、個性を尊重し合う人間関係を形成することができるようにする。

2 題材について

性的マイノリティ当事者が自らのセクシュアリティを自覚するのは、小学生から高校生までの学齢期が多いとされており、学齢期におけるいじめ被害率は58%、自傷行為経験率は首都圏の男子中高生に比べて2～7倍の高さであることが国内研究で示されている。(LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017)

児童は、知らず知らずのうちに「性別に応じた望ましい外見や言動がある」という考えを持たされ、多様な性の在り方について奇異の思いを抱いたり、否定的に捉えたりすることがある。そのため、性の多様性について学習し、自分たちに偏見や思い込みがあることに気付くとともに、多様な性が存在することを知り、性の在り方も「その人らしさ」の一つであることを理解した上で、自分のことや悩みを話しながら、誰もが自分らしく安心して過ごすことができるきっかけとなることをねらいとする。

3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
ワークシートに記入する。	○「男らしさ」、「女らしさ」について、自由に思ったことを書いてよいことを知らせるとともに、他人を傷付けるような表現や内容は避けるよう留意させる。

4 本時の指導

(1) 目標

多様な性があることを知り、性に縛られない「その人らしさ」を尊重することで、互いのよさを見つけ、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さについて理解できるようにする。

③

	4 身の回りにおける性別で区別しない取組について知る。 ・性別記入欄の削除 ・制服の選択自由化	○知っている取組がある場合は発言させる。 ○児童の意見を踏まえながら社会の動きを知らせる。
決める	5 その人らしさを大切にするために取り組むことを意思決定する。	○差別や偏見を生まないためには「違い」を理解すること、正しい知識を知っておくことが大切であることを知らせる。 ○十分に時間をとり、自由に書くことができるようにする。 ○内容は公表しないが、声を掛けてもらいたい時はそのように書いておくことを知らせる。

5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
一週間を振り返り、「その人らしさを大切にする実践」を実践カードに記入する。	○児童の感想から、性的マイノリティについて誤った理解をしていないかを確認する。 ○意思決定した取組の実践状況を確認し、帰りの会等を利用して、お互いのがんばりを認め、実践の継続を図るようにする。

6 指導のポイント

性的マイノリティの説明に限定することなく、一人一人の個性を大切に、皆で助け合い、よりよい社会を築いていくことをねらいとして授業を進める。また、性的マイノリティの理解を深めるためには、和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”や県内の性的マイノリティに関する既存の団体等が提供している資料等を活用する。

一般的には思春期に自分の性的指向を自覚し始め、早ければ小学生のうちに自分の性に違和感を覚えたり、自覚したりすることから、授業の感想等から、自らのセクシュアリティに悩んでいる児童がいることが分かった場合は、速やかに個別指導につなげるなど適切に対応する必要がある。

<資料等>

- ・特定非営利活動法人チーム紀伊水道ホームページ
- ・「性のものさし」

心の性	男	← ○ →	女
体の性	男	⊙ →	女
好きになる性	男	← ○ →	女
表現する性	男	← ○ →	女

指導事例 8 けがの防止

対象：第5学年

教科等：体育科保健領域

★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「けがの防止」

(2) けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。

(ア) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

イ けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。

1 単元の目標

- (1) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付き、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。また、速やかなけがの手当の必要性について理解し、自分でできる簡単な手当ができるようにする。
- (2) けがの防止やけがの手当について、課題を見つけたり、解決の方法を考えたり、判断したりしたことを表現できるようにする。
- (3) けがの防止やけがの手当について、資料で調べたり、進んで課題解決に取り組んだりすることができるようにする。

2 単元について

本単元では、けがの防止について交通事故や身の回りの生活の危険等を取り上げ、それらの課題を見つけ、その解決を目指した活動を通して、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止について理解するとともに、課題を解決するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現できること、また、自分でできる簡単なけがの手当ができることを目指している。

「けがの手当」は、けがの悪化を防ぐために、その種類や程度の状況をできるだけ速やかに把握して処理することや近くの人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。また、「すり傷」や「鼻出血」、「やけど」、「打撲」等を適宜取り上げ、実習を通して簡単なけがの手当ができるようにする。その際、子供にとって身近な場所でのけがについて取り上げたり、保健室にある実際のデータを用いたりすることで、より実践的に理解できる工夫を行っていく必要がある。

また、本単元は中学校第2学年「交通事故の防止・犯罪被害の防止」と関連しており、中学校では、通学路を含む地域社会で発生する犯罪が原因となる傷害とその防止について取り上げることになっていることから、中学校の学習内容を踏まえた上で、系統立てた指導計画を立てることが大切である。

④

3 単元計画

時	学習内容
1	けがの発生 ○毎年多くの交通事故や水の事故が発生し、けがや死亡する人が少なくないこと、けがや事故は人の行動と環境が関わって発生していること。
2	交通事故によるけがの防止 ○交通事故によるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断のもとに安全に行動することが必要であること。
3 (本時)	身の回りの生活が原因となって起こるけがや犯罪被害の防止 ○学校生活の事故や犯罪被害の防止には周囲の危険に気付いて的確な判断のもとに行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。
4	けがの手当 ○けがの状況をできるだけ速やかに把握して対処すること、近くの大人に知らせることが大切であること。 ○自分でできる簡単なけがの手当をすること。

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・ 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断のもとに安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解することができるようにする。(知識)
- ・ 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止に関する課題を見つけ、その解決のための方法や活動の工夫をするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ けがの防止や犯罪被害の防止について、進んで課題解決に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 犯罪とはどのようなことなのかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">犯罪被害とはどのようなことをいうでしょう。</div>	○防犯教室や安全教室等以前行った学習とつなげて考えさせる
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">犯罪被害はどのようにすれば防ぐことができるのかを考えよう</div>	
	2 不審者について知る。 (学習内容) ・ 誰かに危害を加えるかもしれない人のこと。 ・ 性別、外見では判断できない。	○不審者はどのような人か、どのように近づいてくるのかを考えさせる。 ○不審者の近づき方は様々であることを理解させる。

<p>展開 (30分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りにもいるかもしれない。 <p>3 挿絵を見て、犯罪が起こりやすい場所や状況について考える。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪が起こりやすい場所は、入りやすくて見えにくいところ、人の目が行き届かないところ ・一人でいる時は犯罪被害に遭いやすい。 <p>4 犯罪被害に遭わないようにするためにはどうしたらよいか、また、巻き込まれそうになったらどうしたらよいかを考える。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの環境を点検し、犯罪が起こりやすい場所を避ける。 ・犯罪に巻き込まれそうになったら、すぐに助けを呼ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の不審者情報と関連付けて、自分の身の回りにもいるかもしれないということを理解させる。 ○犯罪が起こりやすい場所や状況を選択させ、その理由について話し合いをさせる。 ○個人思考後にグループで話し合いをさせることで、意見を出しやすくする。 ○犯罪による被害が身近であることを意識させる。 ○すぐ助けを呼べるように、準備や練習をしておくことが必要であることを伝える。 ○「イカのおすし・一人前」についても想起させ、確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・イカ……行かない (知らない人について行かない。) ・の……乗らない (知らない人の車に乗らない。) ・お……大声で叫ぶ (連れて行かれそうになったら、大きな声で叫ぶ。) ・す……すぐ逃げる (怖かったら、すぐ逃げる。) ・し……知らせる (どんな人が、何をしたか、家の人に知らせる。) ・一人前…一人で遊ばず、出掛ける前に、家の人に「誰と」、「どこへ」行くかを言う。) ◆【思考・判断・表現】 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止に関する課題を見つけ、その解決のための方法や活動の工夫をするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (発言・学習カード)
---------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

④

<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 学習のまとめをする。 ・学習カードの公園の絵に犯罪が起こりやすい場所や状況を書いたり、犯罪被害に遭わないためには、どのようなことに気を付けたらよいのかを記入したりして、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の放課後に、この公園で遊ぶことになりました。犯罪被害に巻き込まれないようにするためにできることは何ですか。学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<p>○犯罪から身を守るための方法を確認する。</p> <p>◆【知識・技能】 学校や地域でのけがや犯罪被害を防止するには、身の回りに潜む危険の予測と的確な判断のもとに、危険を回避し安全に行動することや環境を安全に整えておくことが必要であることについて理解したことを、言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</p> <p>○発表で足りない部分がある場合は、教師から補足する。</p> <p>○地域にある「きしゅうくんの家」や防犯パトロールについても触れ、地域全体でみんなを守っていることを伝える。</p>
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 指導のポイント

本時では、犯罪に巻き込まれそうになった時、確実に対処し、自分の身を守ることができるようにするとともに、他のけがの原因と異なり、犯罪行為はあくまでも犯罪者が悪いという視点に立ち、犯罪被害者にも落ち度があったという受け止め方にならないよう留意する。

また、学級活動(2)「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」において、安全に関する指導と関連付ける。例えば、防犯を含めた身の回りの安全、交通安全、防災等、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解する内容があげられる。他にも、進んできまりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成するなどの内容が考えられる。

さらに、学校行事において、交通安全教室や防犯(セーフティ)教室、児童会活動としての保健委員会の活動等とも関連付けることで、より一層の効果が期待できる。他にも、地域でフィールドワークを行い「地域安全マップ」を作成する活動等が考えられる。保健で身に付けた知識を地域の様々な場所に当てはめ、隠れた危険を見つける活動は、学習内容をより確実に身に付けることにつながる。また、安全に関わってインタビューしたことを新聞にまとめ、地域に配布するなどの活動も効果的である。

指導に当たって、学校生活において、けがや事故につながりそうな事例が見られた場合は、個人に配慮しながら、その内容についても触れるようにする。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
5年	体育	<p>けがの防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることについて理解する。 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止に関する課題を見つけ、その解決のための方法や活動の工夫をするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、けがの防止や犯罪被害の防止について進んで課題解決に取り組む。

教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	生活	<p>学校、家庭及び地域の生活に関する内容</p> <p>がっこうのまわりをあるいてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学路にある自然や人々、安全を守るための施設等に気付く。 <p>みつけたことをしょうかいしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけた物や気付いたことを教え合うことを通して、学校への愛着や学校生活への自信を深める。 <p>性に関する指導の視点</p> <p>安全のためのルールや約束事を守ったり、身の回りの危険に気付いたりすることができるようにする。また、危険な状態を発見した場合や事件・事故発生時には、近くの人に速やかに連絡し、指示に従うなど、適切な行動ができるようにする。</p> <p>ワンポイントアドバイス</p> <p>安全に気を付けながら学校の周りを歩き、交番や「きしゅう君の家」等安全・安心につながる場所を見つけることで、危険に遭遇しそうな際には、安全を確保するための行動をとることにつながります。</p>
2年	特別活動★	<p>自分のからだをまもろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分だけの大切なところを狙う犯罪があることを知り、体を触られたり、見られたりすることで、少しでも嫌な気持ちになった際には、「イヤだ」「やめて」と叫んでその場から逃げ、そのことを安心できる大人に話した方が良いことを理解できるようにする。

犯罪被害に遭わないための行動の仕方を理解することができる。

また、犯罪被害に遭わないための危険の予測や回避の方法について考えることを通して、犯罪被害を防止するためには、犯罪が起こりやすい場所を避けることやすぐに助けを呼ぶこと等、自分の身は自分で守ろうとする態度を育成することが期待できる。加えて、意図せず加害者となることを防ぐため、法律等による規制があることを説明する。

指導事例 9 自分の体を守ろう

対象：第2学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

1 題材の目標

自分だけの大切なところを狙う犯罪があることを知るとともに、自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになる場合について考え、このような場面で身を守る方法を身に付けることができるようにする。

2 題材について

性被害・性暴力の加害者には、低年齢児を含めて子供を狙っている者もいる。また、実の親や義理の親等監護者や親族が加害者となる事例も多く、特に低学年の性被害は、性の認識がないために予防することができなかつたり、被害に遭ってもすぐに相談できなかつたりする問題が指摘されている。自分だけの大切なところについては、第1学年で自分にとっても、他人にとっても大切なものであることを学習した。

性被害・性暴力に巻き込まれないためにも、性別に関わらず自分だけの大切なところを狙った犯罪があることを知り、嫌なことをされた場合の対処方法を身に付けることをねらいとする。

3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
自分だけの大切なところについて、ワークシートに記入する。	○第1学年の「せいけつなからだ」における学習内容を振り返り、自分だけの大切なところの清潔を保ち、安全を守るための方法について想起させる。

4 本時の指導

(1) 目標

自分だけの大切なところを狙う犯罪があることを知り、体を触られたり、見られたりすることで、少しでも嫌な気持ちになった際には、「嫌だ」、「やめて」と叫んでその場から離れ（逃げ）、そのことを安心できる大人に話した方が良いことを理解することができるようにする。

④

	4 グループで話し合い、全体で発表する。	○怖い思いをした時には、一人で我慢せず、必ず安心できる大人に話し、助けをもらう必要があることをおさえる。
決める	5 自分の命や体を守るために、これから気を付けようと思うことを決めて発表する。	○もし、大人に怖い思いをさせられても、あなたが悪いからではないことを伝える。

5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
授業を振り返り、ワークシートに感想を記入する。	○一人一人の感想を確認し、誤って認識していたり、すでに被害に遭い、困っていたりする場合等には個人情報等に配慮しながら、迅速に対応する。

6 指導のポイント

児童が抵抗なく授業を受けるためには、導入で絵本等を活用すると効果的である。

また、家庭によって生活様式に違いがあるためそれぞれの様子を確認しながら必要に応じて配慮をするとともに、児童が発言しやすい肯定的な雰囲気の中で指導することが大切である。なお、被害に遭った子供がいるかもしれないことを前提に、授業の導入では、辛くなった場合は我慢せず、申し出るように伝える。

<参考>

絵本「とにかくさけんでにげるんだ」

作：ベティー・ボガホールド 訳：安藤由紀 絵：河原まり子
岩崎書店